

IV 人権が尊重される社会の形成

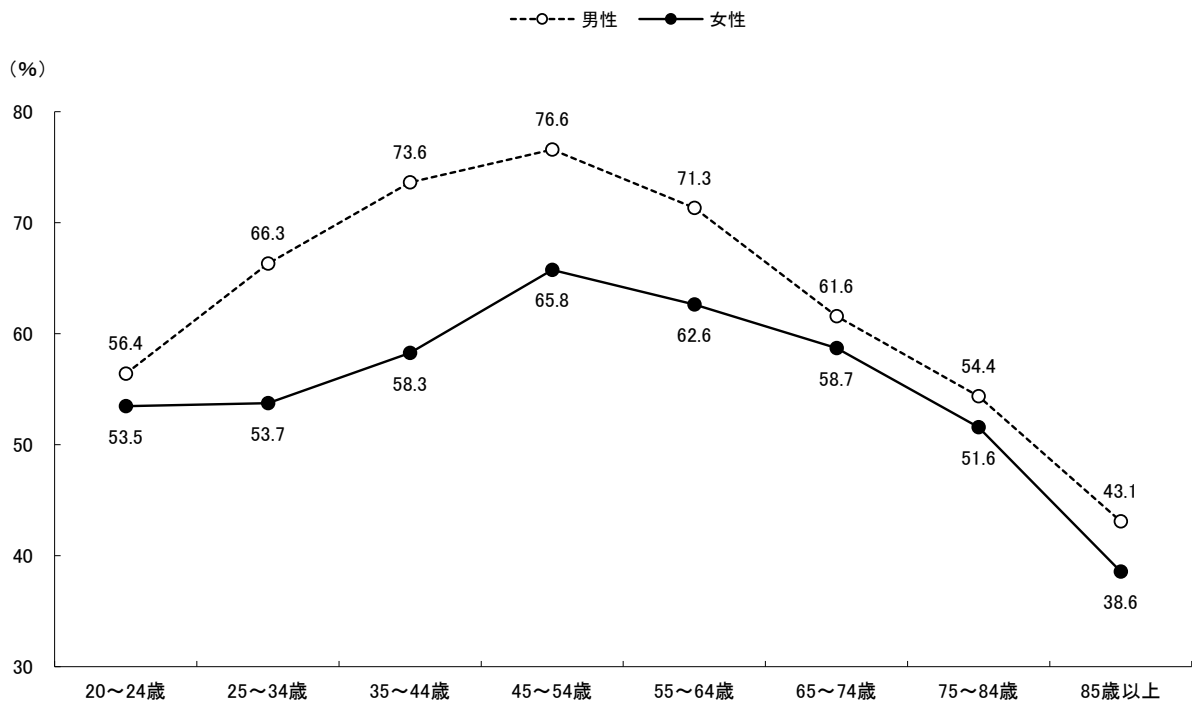
(2) 生涯を通じた男女の健康支援

IV-4 妊娠・出産・避妊

1. 年齢階級別健康診断受診率

健康診断受診率を年齢階級別にみると、いずれの年代でも女性の割合は男性を下回っており、特に「25～34歳」「35～44歳」「45～54歳」で開きが大きく、その差は10ポイントを超えている。受診した健康診断等の種類については、男女ともに64歳以下では「勤め先等が実施した健診」が、65歳以上では「市区町村が実施した健診」が最も多くなっている。

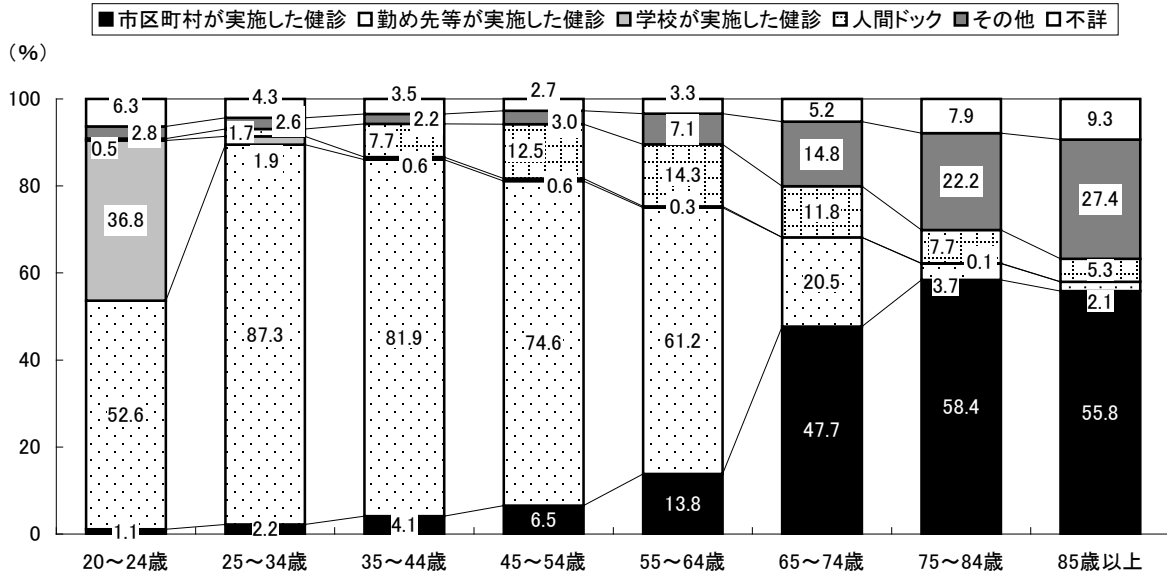
図表IV-4-1 年齢階級別健康診断受診率（全国）



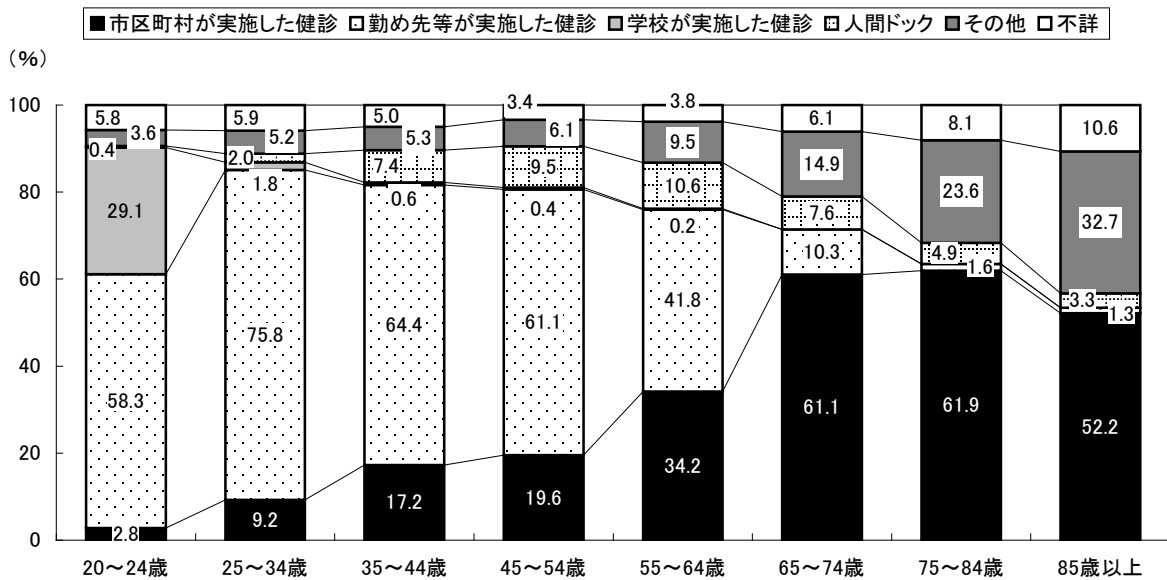
資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成25年）

図表Ⅳ－４－２ 年齢階級別受診した健康診断等の種類（全国）

<男性>



<女性>



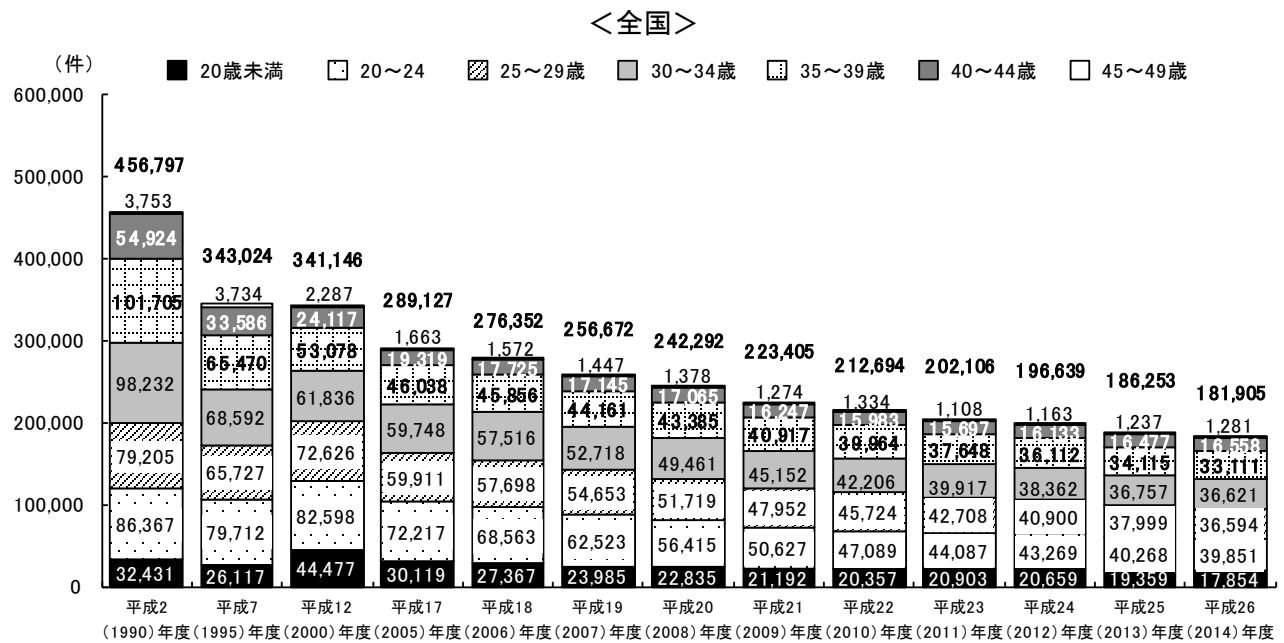
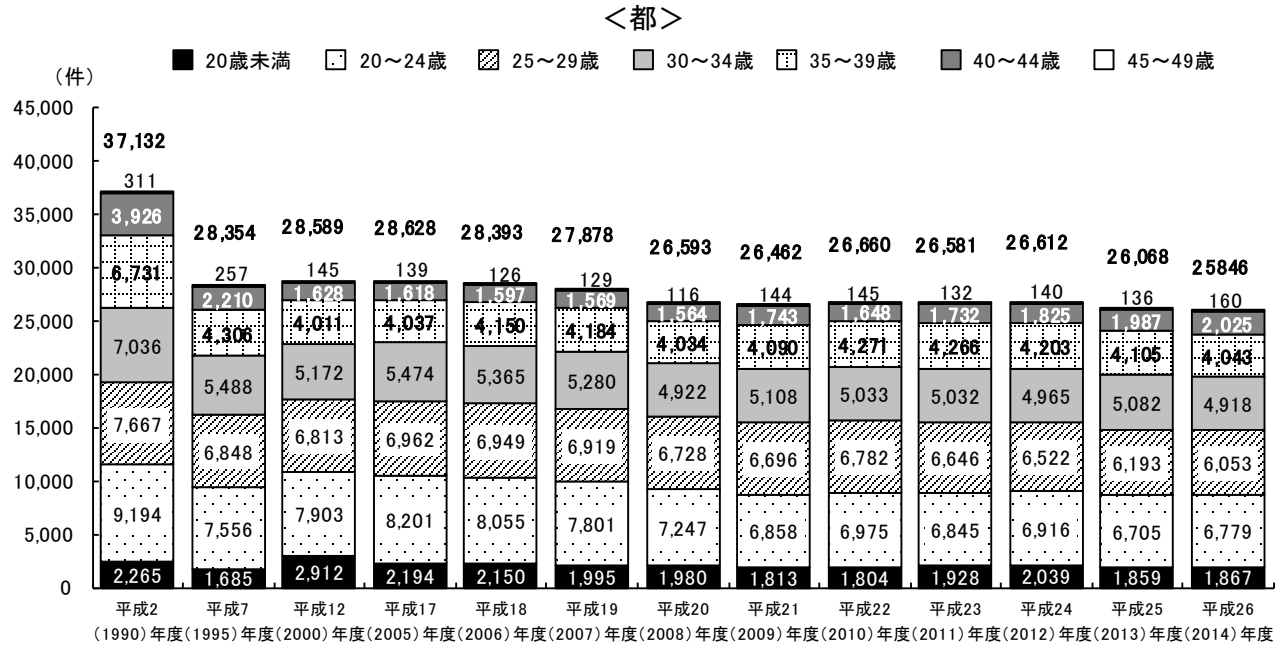
資料：厚生労働省「国民生活基礎調査」（平成22年）

IV 人権が尊重される社会の形成

2. 人工妊娠中絶件数の推移

人工妊娠中絶件数は、都はほぼ横ばい、全国では減少傾向にある。平成 26 (2014) 年度は、都では 25,846 件、全国では 181,905 件となっている。

図表IV-4-3 人工妊娠中絶件数の推移 (都・全国)



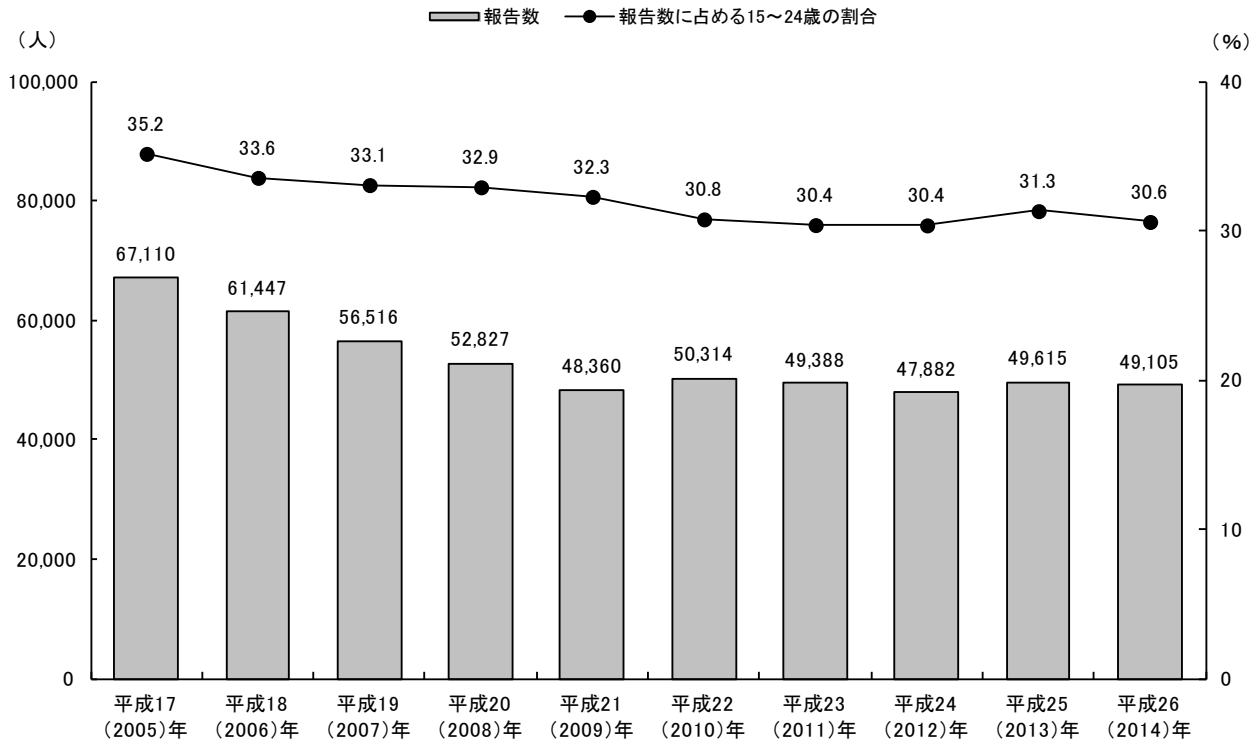
注 1: 平成 22 (2010) 年度は、東日本大震災の影響により、福島県の相双保健福祉事務所管轄内の市町村が含まれていない。
 注 2: 総数には 50 歳以上と年齢不詳の者を含む。

資料: 厚生労働省「平成 26 年衛生行政報告例」

3. 性感染症報告数と15～24歳の割合の推移

性感染症（性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症）の報告数は、15～24歳の若年層が全体の約3割を占めており、近年横ばい傾向にある。

図表IV-4-4 性感染症報告数と15～24歳の割合の推移（全国）



注1：ここでは、性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症の4感染症を合わせて、「性感染症」という。

注2：平成25（2013）年は平成26（2014）年4月現在の概数である。

資料：厚生労働省「感染症発生動向調査」（平成26年）